



TSC/prog

インストール・チュートリアル

Ver 3.2

抜粋版

1 本ドキュメントの目的

本ドキュメントは以下の目的で作成しております。

- ・ TSC/prog のインストール方法の解説
- ・ TSC/prog の動作確認方法の解説
- ・ TSC/prog のロジックエンジンの概説

2 はじめに

2.1 準備 (TSC/com Ver.3 のインストール)

TSC/prog をインストールする前にまず TSC/com Ver.3 を適切にセットアップする必要があります。詳細は TSCcom チュートリアル.doc を参照願います。以下に手順を簡単に示します。(注意: TSC/prog Ver3 は TSC/com Ver3 専用です。その他バージョンの TSC/com では使用できません!)

【確認】 この先の作業には以下の環境・プログラムが必要です。

- WindowsNT4.0SP6 , Windows2000 以降がインストールされたパソコン
- Java 実行環境 Sun JRE1.3 以降
- Java Plug-in 1.3 以降 (JRE と同時にインストールできます)
- TSC/com インストーラ
- TSC/prog インストーラ

2.2 JRE のインストール

- Sun のホームページから JRE1.3 以降のインストーラをダウンロードする。
- インストーラにしたがって JRE1.3 以降をインストールする。(詳細は <http://java.sun.com/j2se/1.4/ja/> などを参照願います)。

2.3 TSC/com のインストール

- TSC21 のホームページから TSCcom30F.exe をダウンロードする。
(<http://www.serl.co.jp/tsc21/members/arc/TSCcom30F.exe>)
- インストーラにしたがって TSC/com をインストールする。

2.4 TSC/com の動作確認

TSCcom チュートリアル.doc にしたがって動作確認を行います。

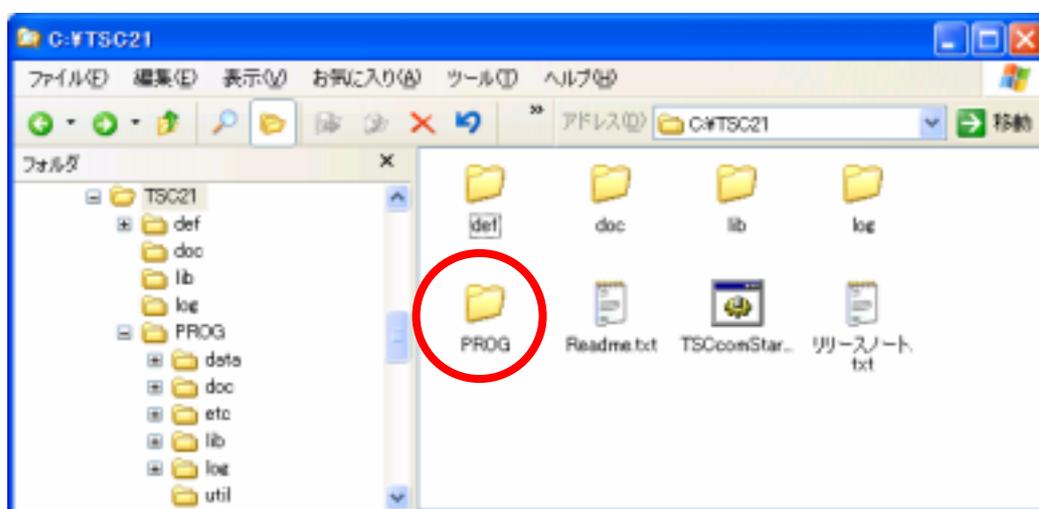
【重要】 必ず 2 次データ管理の動作確認まで行ってください。確認を行わない場合重大な障害が発生します。

3 TSC/prog のインストール

TSC/prog のインストールは TSC/com の動作確認ができていることを前提としています。TSC/com の動作確認が取れていないと問題個所の特定が困難になります。必ず確認を行ってから先にお進み下さい。

3.1 インストール

TSC/prog のインストールにはインストーラは不要です。PROG フォルダ (PROG ホームディレクトリ) を TSC/com がインストールされたフォルダ直下 (デフォルトは C:¥TSC21¥) にコピーしてください。



3.2 環境変数の設定

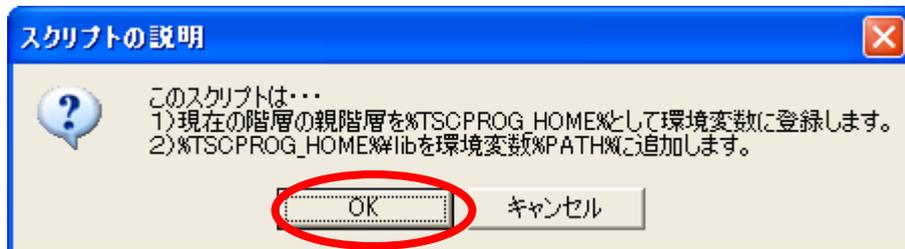
スクリプトによる自動登録の場合

%TSCPROG_HOME%\utilにある、「TSCprog 環境変数【登録】.vbs」をダブルクリックしてください。スクリプトが起動します。

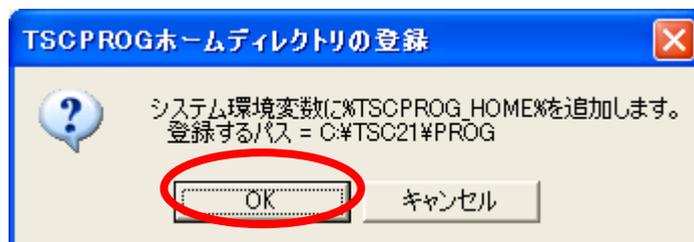
注) お使いの PC において、WSH が無効の場合は手動で登録してください。



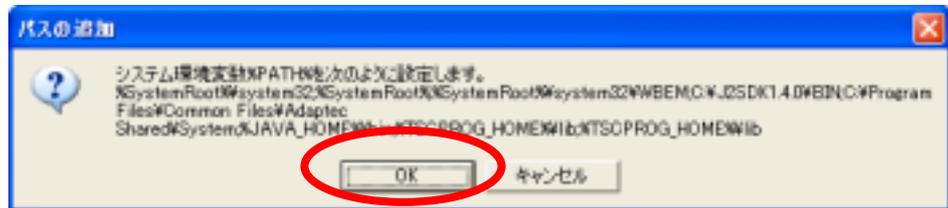
スクリプトの説明が表示されます、OKで進んでください。



TSC/prog のホームディレクトリを登録します。



パスを追加します。



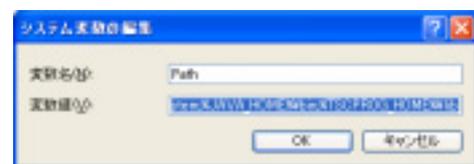
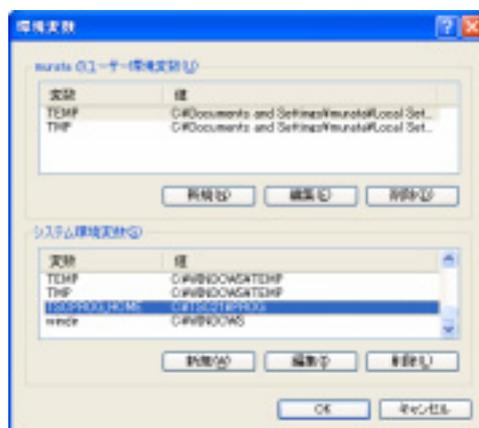
終了の確認が表示されます。



手動登録の場合

システム環境変数に以下の項目を追加してください。

- %TSCPROG_HOME%としてインストールした PRPG フォルダのパス（デフォルトは C:\¥TSC21¥PROG）を追加
- %PATH%に%TSCPROG_HOME%¥lib を追加



Windows95/98/Me の場合

注) TSC/prog は Windows95/98/Me での動作はサポートしていません。

Windows 98/Me では、環境変数を C:\AUTOEXEC.BAT ファイルに設定します。
環境変数は、次の書式で設定します。

set 変数名=変数値

お使いの環境により C:\AUTOEXEC.BAT の内容は異なりますが、次のように最下行に追加してください。

```
@ECHO OFF
loadhigh c:\windows\command\ntlsfunc.exe c:\windows\country.sys
SET PATH=C:\JUST\JSLIB32;%PGPPATH%;%PATH%
SET TZ=JST-9
SET PATH=C:\PROGRA~1\SYMANTEC\PCANYW~1;%PATH%
SET TSCPROG_HOME=C:\TSC21\PROG
SET PATH=%PATH%;%TSCPROG_HOME%\lib
```

C:\CONFIG.SYS の最終行に以下の記述を追加してください。もし、shell= の行がすでにある場合は、"/E:8192"を追加して下さい。

"/E:"もすでにある場合は、数字をより大きな値に変更してください。

これは、起動時の環境変数領域を 8192 バイトに設定するもので、最大 32768 まで設定可能です。

```
.....
shell=C:\WINDOWS\COMMAND.COM C:\ /P /E:8192
```

Windows 98/Me の場合、AUTOEXEC.BAT、CONFIG.SYS ファイルを修正したら、その設定を有効にするために、コンピューターを再起動しなければなりません。

3.3 登録された環境変数の確認

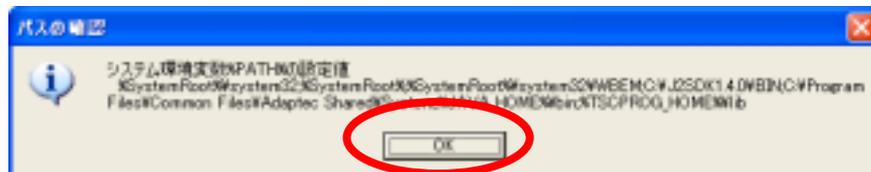
%TSCPROG_HOME%\utilにある、「TSCprog 環境変数【確認】.vbs」をダブルクリックしてください。



TSC/prog のホームディレクトリを確認してください。



パスの確認を確認してください。行末に「%TSCPROG_HOME%\lib」が追加されていれば成功です。



終了確認が表示されます。



3.4 ディレクトリ構成

TSC/prog のインストール時のディレクトリ構成は以下のようになります。
(プロジェクトは計測対象物件などを識別する名称です。)

TSC21

```
└─█%TSCPROG_HOME%(デフォルト C:¥TSC21¥PROG)
  └─TSCprogStart.bat          起動用バッチファイル
  └─IEGmon.html              モニタリング用HTMLファイル
  └─█data                    収集データ・演算データ保存
    │ └─█プロジェクト1      プロジェクト1のデータ
    │ └─█プロジェクト2      プロジェクト2のデータ
    │   . . . .
  └─█doc                    マニュアル
  └─█etc                    カスタムファイル
    │ └─█common              共通設定ファイル
    │ └─█プロジェクト1      プロジェクト1の設定ファイル
    │ └─█プロジェクト2      プロジェクト2の設定ファイル
    │   . . . .
  └─█lib                    ロジックエンジン・ライブラリ
  └─█log                    ログファイル
    │ └─MsgBoxServer.log     共通ログファイル
    │ └─█プロジェクト1      プロジェクト1のログファイル
    │ └─█プロジェクト2      プロジェクト2のログファイル
    │   . . . .
  └─█util                  ユーティリティプログラム
```

4 TSC/prog のアンインストール

TSC/prog をアンインストールするには、インストールした PROG フォルダを削除してください。レジストリには手を加えていません。